

●モノグラフ

小学生ナウ

Vol. 7-7

## 通知表 1

### 目次

要 約	2
はじめに	4
1. 通知表をもらうときの気持ち	5
● 気になる通知表	5
● 気になる算数、国語	7
● 生活・行動面の重み	10
2. 通知表の成績のよい子	12
● 成績のよい子の将来	12
● 成績がよくなるには努力	15
3. はげみとしての通知表	17
● 通知表をもらったときのやる気	17
● 子どもの努力の様子	20
● 子どものやる気と努力の谷間で	23
4. 父母の通知表に対する姿勢	26
● 通知表を手にしたとき	26
● 努力を認めてくれる父母	29
5. 望ましい通知表を求めて	33
● 9割の子は通知表をとってある	33
● 子どもの望む成績のつけ方	34
まとめに代えて	38
子ども研究ノート⑦ やる気	深谷昌志……39
資料1 調査票見本	46
資料2 学年・性別集計表	56

# 調査レポート／通知表1

## 要 約



### ① 気になる通知表

通知表をもらうとき、ドキドキする。そして、友だちには負けたくないと思っている(図1)。



### ② 通知表で最も気になること

学習面では算数の成績で、その理由として、「苦手・嫌い」「社会に出てから大切」などをあげている(図2、表1)。生活面では「友だちと仲よくする」ことである(表2)。



### ③ 成績のよい子は努力する

成績のよい子は、家で予習・復習・宿題をしっかりやり、授業中もまじめだからだと思っている(図10)。

## 調査概要

1. 調査主題 通知表
2. 調査視点 子どもたちや父母が、通知表をどのよう  
に受けとめ、どう生かしているのかをとらえる。
3. 調査項目 通知表をもらうときの気持ち/もらっ  
たときの今後のやる気と努力/通知表で気になる  
ところ/成績のよい子とその将来/父母の態度/  
子どもの望む通知表、など。

放送大学教授 深谷昌志

船橋市立高根台第一小学校教諭 新井 誠

#### ④やる気と実際の努力

今後気をつけようと思っても、なかなか努力できないのが、「友だちと仲よくする」「すすんで発表する」、逆にやる気と努力が一致するのが、「忘れ物をしない」「身の回りの整理・整頓」である(図15)。



#### ⑤父母の通知表の見方

父親も母親もよい点や努力したところを認めてくれる(図19、図20)。



#### ⑥子どもの望む通知表のつけ方

とくにこのスタイルの通知表がいいとは思っていない。成績は、テストだけでなく、授業中の態度も入れて、先生の意見でつけてほしいと思っている(図25、図26、図27)。



4. 調査時期 昭和62年2月  
5. 調査対象 東京、千葉、埼玉、茨城、秋田の小学  
5・6年生  
6. 調査方法 学校通しによる質問紙調査

7. サンプル数 (人)

学年/性	男子	女子	計
5年	351	317	668
6年	404	362	766
計	755	679	1,434

---

## ◎はじめに◎

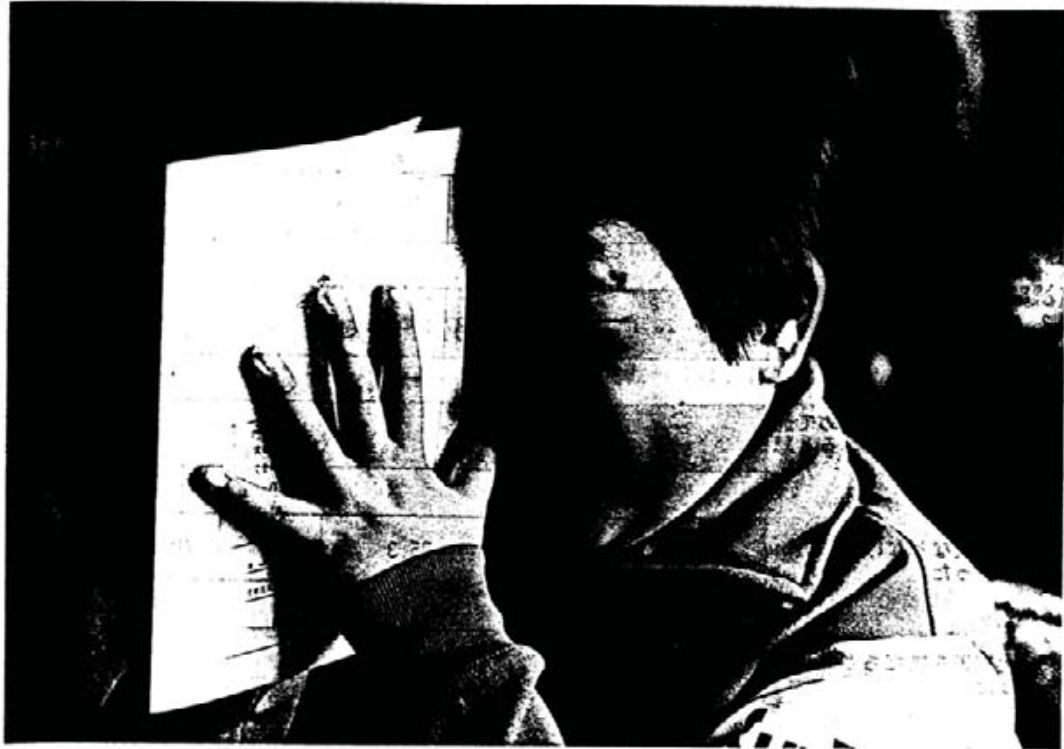
子ども時代の心に残る思い出として通知表をあげる人がある。その多くは、苦々しい思い出のようである。おとなになった今でも、通知表を前にして、今は亡き父親に叱られている夢を見るという人もいる。

現在、教師として通知表をつける立場になった私自身、小学校時代、通知表で「1」をもらったときの食事がのどを通らなかったほどのショックと、叱ることさえできずあ然としていた父母の顔を忘れることができない。

それだけに、どんなにがんばっていても、クラスの他の子がそれ以上がんばっているために成績に1をつけざるをえないときなど、この通知表が、本当に子どもたちのすこやかな成長に役立つのだろうかという思いにかられる。本来、子どもの意欲をよびおこすはずの通知表が、かえって学習に対する姿勢まで、ねじまげてしまっているということはないのであろうか。

本レポートでは、子どものサイドから、通知表に対する意識や親の受けとめ方などを探りながら、通知表をめぐる問題に接近し、望ましい通知表への手がかりを明らかにしてみたい。

# 1. 通知表をもらうときの気持ち



## ● 気になる通知表

さっそく、子どもたちが通知表に対してどんな気持ちを抱いているのか探ってみよう。

図1は、通知表に抱く気持ちを「あなたは今までに、次のようなことがどのくらいありましたか」という問いによって得られた結果である。

「通知表をもらうとき、ドキドキしたこと」が「何回もある」という子が39%と最も多い。「わりとある」までを含めると7割に達し、以下、「成績で友だちに負けたくない」(57%)、「先生は、努力も認めて通知表をつけてくれる」(56%)と続く。この3項目に関しては、「ほとんどない」という答えは、2割にも満たない。

下位の項目に目を向けてみると、「形式や内容が違えば、自分の力を発揮できる」「成

績のつけ方がおかしい」など、今の通知表に否定的な意見が並ぶ。

子どもたちの多くは、通知表への関心が強く、友だちと自分の成績が気になっているようだが、通知表の形式や内容、成績のつけ方には、不満や疑問を持っていないのである。

しかし、「通知表などなければいい」という子が、「わりとある」まで含めると34%と、3人に1人いるという結果は見逃せないことである。

また、「勉強ができるようになるために、通知表が役に立った」ことが、「何回もある」子は1割しかおらず、「ほとんどない」子が32%、「1、2回ある」だけでも含めると62%にまで達するのである。

通知表は、本来、子どもの意欲を引き起こ

し、明日への学習に役立てるものではなかったのだろうか。この点がとても気がかりであ

るが、その考察は後にゆずることにして、もう少し通知表に対する気持ちを追ってみよう。

図1 通知表をもらうとき

	(%)			
	何回もある	わりとある	1,2回ある	ほとんどない
1. 通知表をもらうとき、ドキドキした	39.1	31.3	14.2	15.4
2. 成績で、友だちに負けたくないと思った	29.1	27.6	24.4	18.9
3. 先生は、努力も認めて通知表をつけてくれると思った	21.5	34.5	25.8	18.2
4. 通知表などなければいいと思った	7.2	16.7	25.3	40.8
5. 通知表を友だちと見せ合った	13.2	24.7	33.2	28.9
6. 勉強ができるようになるために、通知表が役に立ったと思った	9.8	28.4	30.2	31.6
7. 成績のつけ方がおかしいと思った	6.7	8.3	25.3	59.7
8. 通知表の形式や内容が違えば、自分の力を発揮できると思った	5.8	13.0	21.3	59.9

## ● 気になる算数、国語

「A君は、学習の成績はもう一歩ですが、友だち思いで、係の仕事もすすんでやってくれるとてもよい子です」とA君のお母さんに言ったところ、「先生、なぐさめてくれなくても結構です」という答えが返ってきた。

生きていくうえで、行動・生活面が大切といいながらも、学習面がやはり気になるのである。

子どもたちも、通知表を手渡され、まず目

を走らせるのは学習面である。学習面の中でも教科による重みの違いがないだろうかたずねたのが、図2である。

図が示すように、「とても気になる」の数値を見ていくと、算数(54%)、国語(33%)、社会(30%)と主要教科がやはり上位を占め、芸能教科では、体育(28%)がトップである。

性差、学年差に着目したのが、図3、図4である。女子のほうが男子に比べ成績が気に

図2 成績が気になる教科

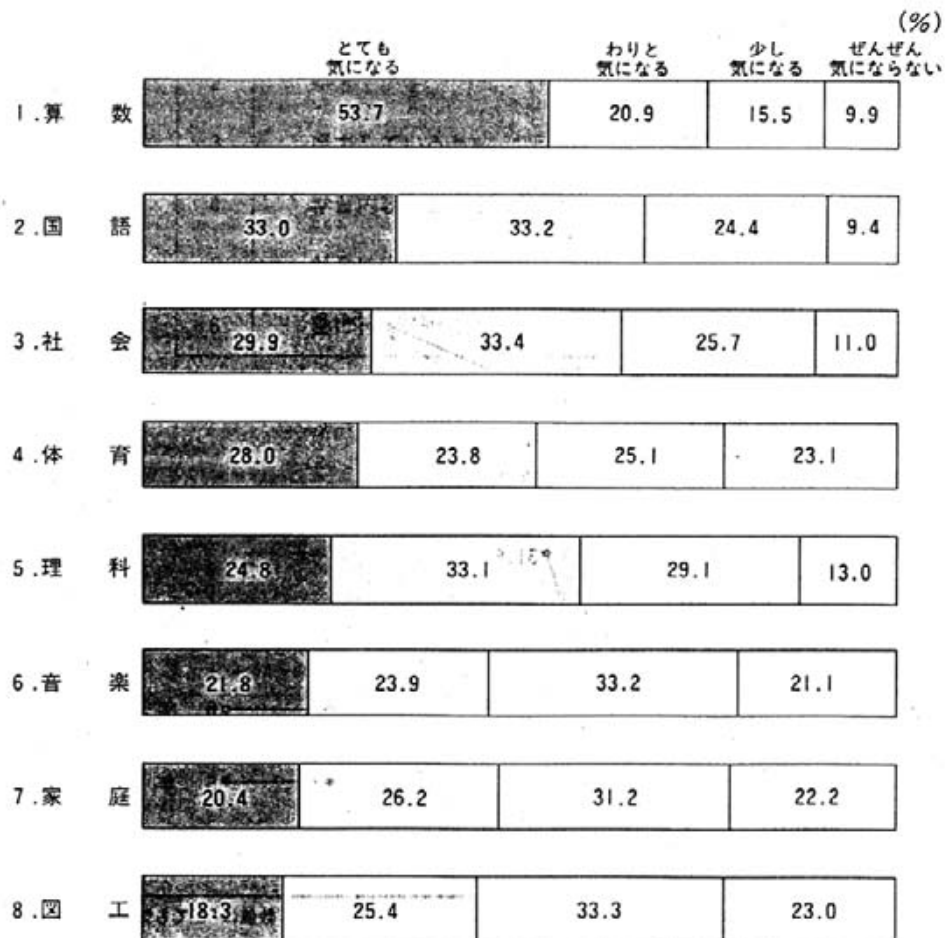


図3 成績が気になる教科×性

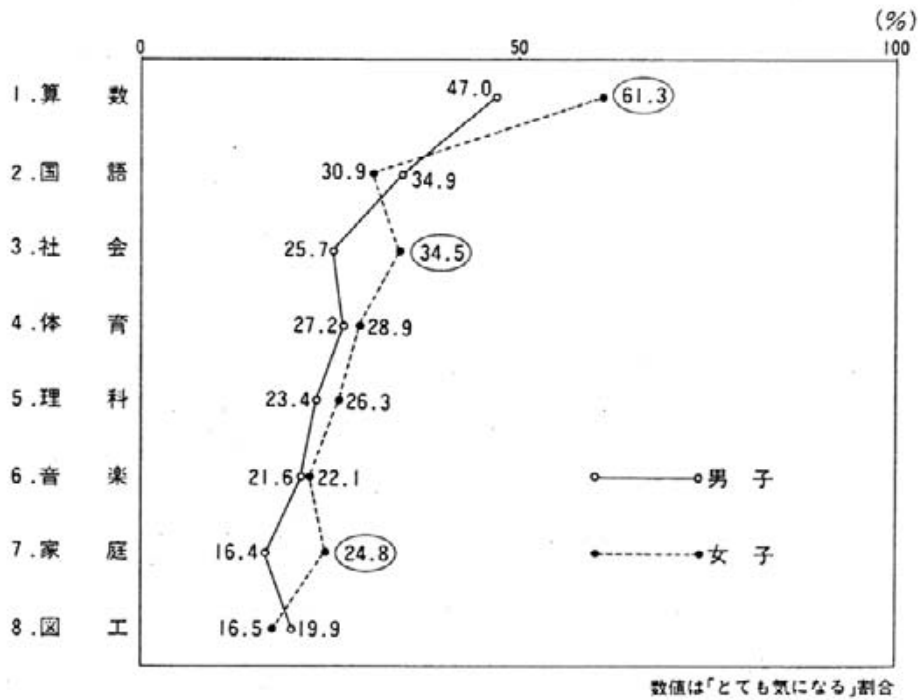
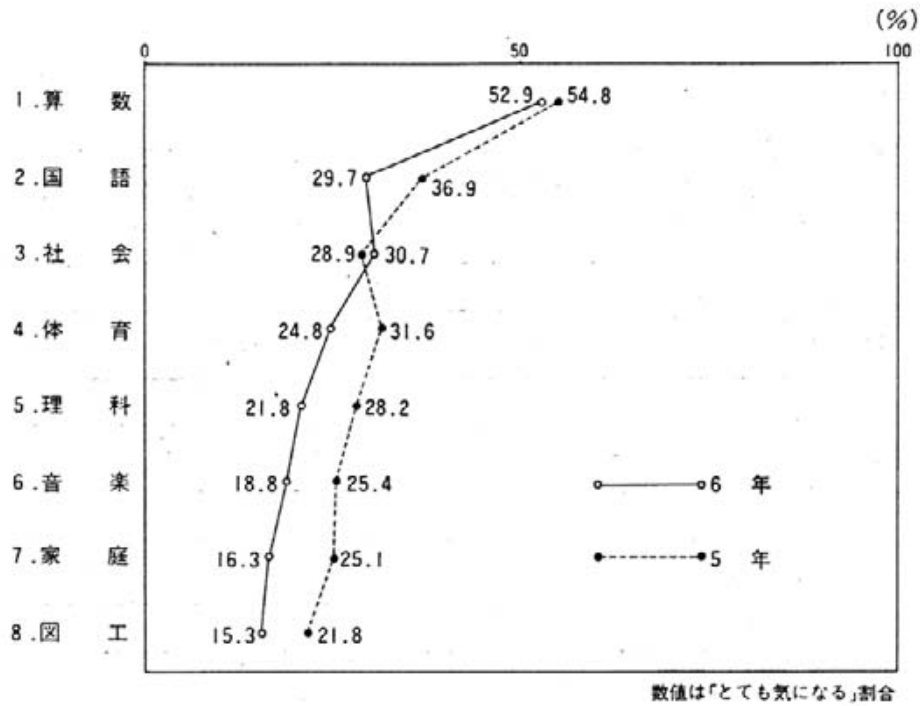


図4 成績が気になる教科×学年





なるようで、とくに、算数、社会、家庭科で差が見られる。5年と6年では、全般的に5年生のほうが成績が気になるようであるが、それほど大きな差があるとはいえないようである。

では、どんな理由から算数や国語などが気になるのだろうか。その結果が表1である。

ここでは、一番気になる教科をあげてもらい、その理由を自由記述してもらいまとめた。一番多い理由は、「苦手・嫌い」の736人(51%)で、算数、国語などの主要教

科が気になるという子どもたちである。次に多いのが、「得意・好き」の225人(16%)で、体育などの芸能教科が気になる子の割合が多かった。「努力しているから」という子は、101人(7%)で三番目であった。以下、「学習内容がむずかしい」「社会に出てから大切」「塾に行っているから」という理由が続く。「苦手・嫌い」であまり勉強したくないにもかかわらず成績が気になるのは、通知表をもらったときの父母の目を気にしているからなのだろうか。

表1 教科の成績が気になる理由<ベスト6>

順位	項目	人数
1	苦手・嫌い	736人
2	得意・好き	225人
3	努力しているから	101人
4	学習内容がむずかしい	82人
5	社会に出てから大切	62人
6	塾に行っているから	24人

(自由記述をまとめたもの)

## 生活・行動面の重み

最近、学習面だけが強調されるような風潮があるが、子どもたちにとって生活・行動面の成績は、どのくらい気になるのだろうか。その結果が図5である。

子どもたちは、教科よりも気になるという子が29%、教科に比べれば気にならないという子が32%とほぼ半々である。さらに、図を見ていくと、本人よりも父親、それよりも母親が、生活・行動面の成績に重きを置いていることがわかる。だが、その母親でも教科の成績より「とても気になる」のは、21%にすぎない。

では、さらに男女差についても調べてみよう。図6を見ると、子どもたち自身の場合では性差は見られないが、男子の父母が、女子の父母よりも、生活・行動面の成績が気になっていることがわかる。

では、生活・行動面ではどんなことを大切

に思っているのだろうか。それが表2である。

ここでも、自由記述の結果をまとめてみた。子どもたちが一番大切だと思うのが、「友だちと仲よくする」(268人)、次が「思いやりのある行動」(162人)である。さらに、五番目に「友だちと協力する」、九番目に「だれに対しても差別しない」と、仲間関係を気にした項目が多いことに気づく。最近の子どもたちの仲間関係は強い絆で結びついた関係ではなく、たまたま同じクラスになったから、席が近いからぐらいの結びつきしかないだけに、いじめられないように、仲間はずれにされないようにと仲間関係を気にかけて、友だちを求めている子どもたちの心情がうかがえる。

仲間関係以外の項目では、「責任ある行動」「あいさつ・言葉づかい」「自分からすすんで行動する」が上位にくる。

図5 生活・行動面の重み

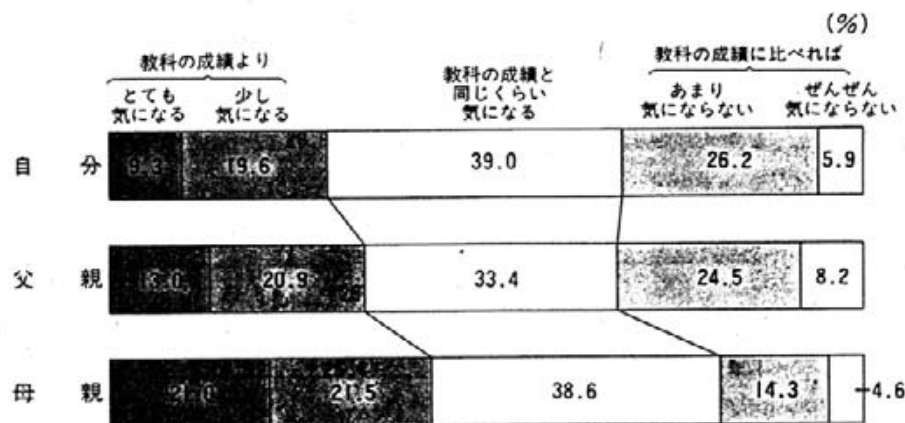
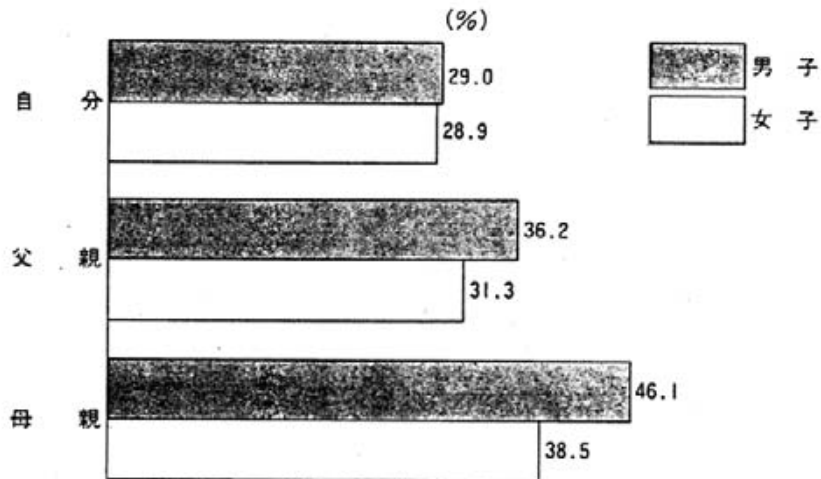


図6 生活・行動面の重み×性



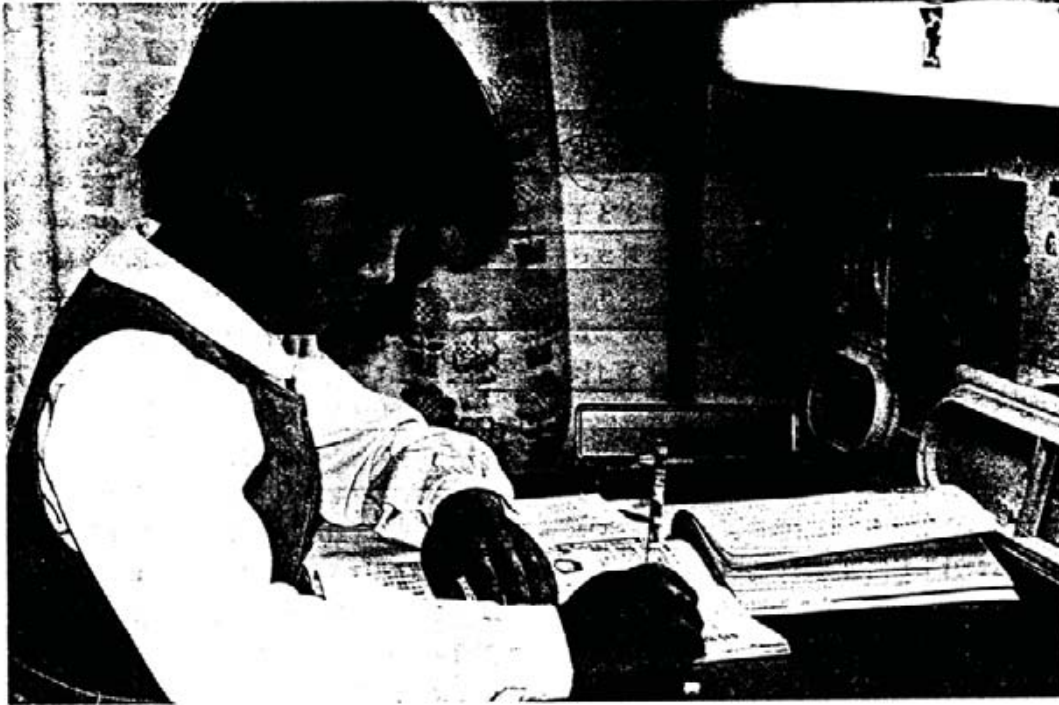
数値は教科の成績より「とても・少し気になる」割合

表2 生活・行動面で大切だと思うこと<ベスト10>

順位	項目	人数
1	友だちと仲よくする	268人
2	思いやりのある行動	162人
3	責任ある行動	137人
4	あいさつ・言葉づかい	120人
5	友だちと協力する	87人
6	自分からすすんで行動する	82人
7	まじめな態度で授業を受ける	71人
8	ねばり強く最後までやりぬく	38人
9	だれに対しても差別しない	37人
10	係の仕事をする	36人

(自由記述をまとめたもの)

## 2. 通知表の成績のよい子



### ● 成績のよい子の将来

通知表の評価は、あくまでも目安であり、絶対的なものではない。しかも、小学校の場合、1人の担任の目につけたものである。

小学校で目立たなかった子どもたちが、社会に出て成功している例もあるし、また、学校では成績のよかった子どもが、社会に出てまったく役に立たないという例もたびたび耳にする。

通知表の評価はよいにこしたことはないのだろうが、子どもたち自身は、通知表の成績のよいことが将来の生活にどの程度影響すると思っているのだろうか。

通知表の成績のよい子が、「熱心な小学校の先生」以下10項目の仕事につける可能性をたずねたのが図7である。

図7からわかるように、10項目の中の多くは、そう簡単になれそうもない仕事ばかりで

ある。したがって、「ぜったいになれる」という子は、第1位の「熱心な小学校の先生」でも24%にすぎず、他の仕事は2割はおろか1割に達しないものもある。だが「になれるかもしれない」と思っている子まで含めると、10項目中7項目までが7割を超える。

子どもたちは、成績のよい子のバラ色の未来に対し、ぜったいとはいいきれないものの、かなり高い可能性を感じているようである。

では、もう少し身近な、中学・高校・大学の成績についてはどうなのだろう。次の図8に示してある。ここでも「ぜったい入れる」とはいえないものの、9割からそれ以上の子が「入れるかもしれない」と、とても高い可能性を感じている。高校、大学、社会人とすすむにつれ「通知表より実力」という考えが

もっと増えるだろうと期待していたが、それほど数値は変わらず、かなり通知表の成績の力を信頼しているようである。

そして、成績上位の子よりも下位の子のほうが、通知表の信頼度が高いことが、図9よりうかがえる。

図7 成績のよい子の将来

	ぜったい なれる	たぶん なれる	なれるかも しれない	とても なれない	ぜったい なれない
1. とても熱心な小学校の先生	24.2	30.9	26.3	8.6	10.0
2. 日本のあり方を考える国会議員	17.2	20.3	32.4	13.5	16.6
3. 新しい研究をしている大学の先生	15.9	28.5	32.4	11.3	11.9
4. むずかしい病気をなおす医者	13.9	23.8	35.5	14.1	12.7
5. 大きな会社の社長	13.8	28.6	34.5	10.4	12.7
6. 大きなビルを設計する技師	12.7	24.6	36.6	12.9	13.2
7. プロスポーツのスター選手	10.3	15.6	31.7	21.2	21.2
8. ジャンボ・ジェット機のパイロット	6.8	22.2	42.7	12.2	16.1
9. 子どもに人気のあるマンガ家	6.0	15.5	38.4	21.5	18.6
10. テレビによく出る人気のある歌手	5.2	7.0	28.1	27.7	32.0

図8 成績のよい子の今後

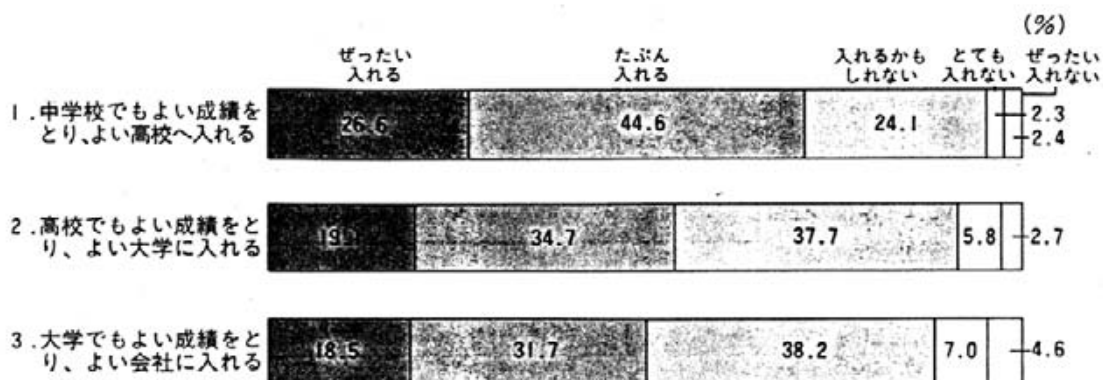
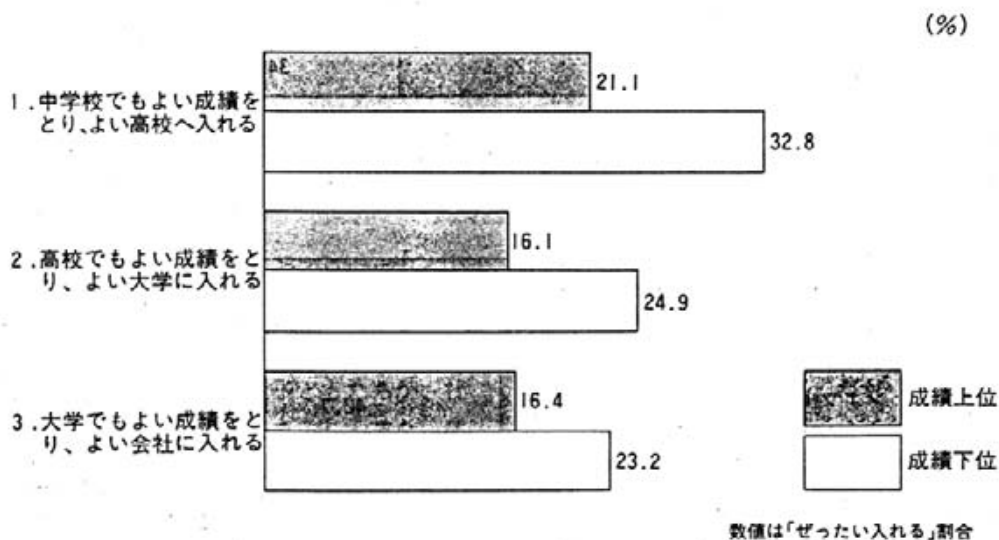


図9 成績のよい子の今後×成績



## ● 成績がよくなるには努力

では、子どもたちはどんな子が成績がよいと思っているのだろうか。それをたずねた結果が図10である。図からわかるように、第1位が「予習や復習をきちんとやっている」、続いて「宿題をわすれずにやる」「授業中たくさん発表する」「授業をきちんと聞いて、ノートをとっている」など、成績のよい子は自分で努力をしっかりしているからだと思っている子は、「わりとそう思う」まで含めると、4分の3を超える。そして、逆に「生まれつき頭や運動神経がよい」「教え方の上手な先生に教わった」「先生がいるときだけ、まじめに勉強や仕事をする」など、努力とは関係しないことや、にせ物の努力では「ぜんぜん成績がよくなる」と思う子どもが、3割か

ら5割近くにもものほるのである。

成績のよい子は、まじめで努力している子だということは否定しがたいし、また、成績が悪い子に努力不足が感じられるのも確かであろう。しかし、「成績＝努力」の関係を、子どもたちが強く信じているのが気かりである。相対評価の通知表の場合、みなが同じように努力しているクラスでは、よい点をとっても、家で一生懸命やっても、なかなか通知表の成績が上がらないことがある。

通知表がはげみになるのは、実際には成績上位の子どもであり、下位にいる子どもにとってははげみどころか、あきらめの気持ちをもたせてしまう心配はないのであろうか。

た  
い  
な  
い

図10 通知表の成績のよい子

	(%)			
	とても そう思う	わりと そう思う	少し そう思う	ぜんぜん そう思わない
1. 予習や復習をきちんとやっている	61.2	26.1	8.2	4.5
2. 宿題をわすれずにやる	50.6	27.7	14.7	7.0
3. 授業中たくさん発表する	48.6	27.3	16.7	7.4
4. 授業をきちんと聞いて、ノートをとっている	48.3	33.2	13.4	5.1
5. 勉強や運動が好き	40.6	37.7	15.7	6.0
6. 友だちからたよられている	40.3	28.2	20.3	11.2
7. 仕事を最後までやりぬく	36.2	30.6	23.2	10.0
8. 学習塾や習いごとに行っている	35.9	25.0	22.0	17.1
9. みんなのものを大切にし、友だちに迷惑をかけない	30.0	34.5	23.6	11.9
10. すすんで係の仕事をする	28.0	33.8	26.5	11.7
11. 先生から気に入られている	27.8	22.6	24.0	25.6
12. だれにでも親切で、やさしい	26.4	33.8	26.0	13.8
13. 生まれつき頭や運動神経がよい	17.9	21.9	28.0	32.2
14. いろいろな遊びを工夫する	17.0	24.8	33.7	24.5
15. 教え方の上手な先生に教わった	15.9	24.6	29.1	30.4
16. 小学校に入る前から、勉強や運動をがんばった	14.4	21.3	37.4	26.9
17. 先生がいるときだけ、はじめに勉強や仕事をする	11.9	14.3	25.0	48.8



### 3. はげみとしての通知表



#### ● 通知表をもらったときのやる気

そこで、子どもたちが通知表を手にしたとき、通知表に書かれていることをもとに、来学期、どんな点をがんばろうとするのかを調べたのが図11である。

図11から、「とてもそう思う」の数値の高い項目を順に紹介すると、「忘れ物をしない」(53%)、「友だちと仲よく」(49%)、「すすんで発表する」(44%)、「きまりを守る」(38%)、「仕事を最後までやる」(38%)などである。

ここで気づくのは、上位に生活・行動面の項目が並び、学習面の項目は下位に多くあるということである。

図10の「成績のよい子」では、「予習や復

習をきちんとやる」をはじめ、学習面の項目が上位を占めていたことと比べると対照的である。

さらに、図12で、やる気と成績との関係を調べてみると、興味深いことがわかってくる。図中に、成績下位の子のほうが数値が高いものに○をつけてみると、「忘れ物をしない」をはじめ、5項目中4項目までが生活面についてである。

「成績＝努力」と学習面へのやる気を見せているのは、成績上位の子が多い。下位の子は、学習面でいくらがんばっても成績は伸びないと思い、せめて生活面でがんばろうとしているのであろうか。

図11 通知表をもらったときの子どものやる気

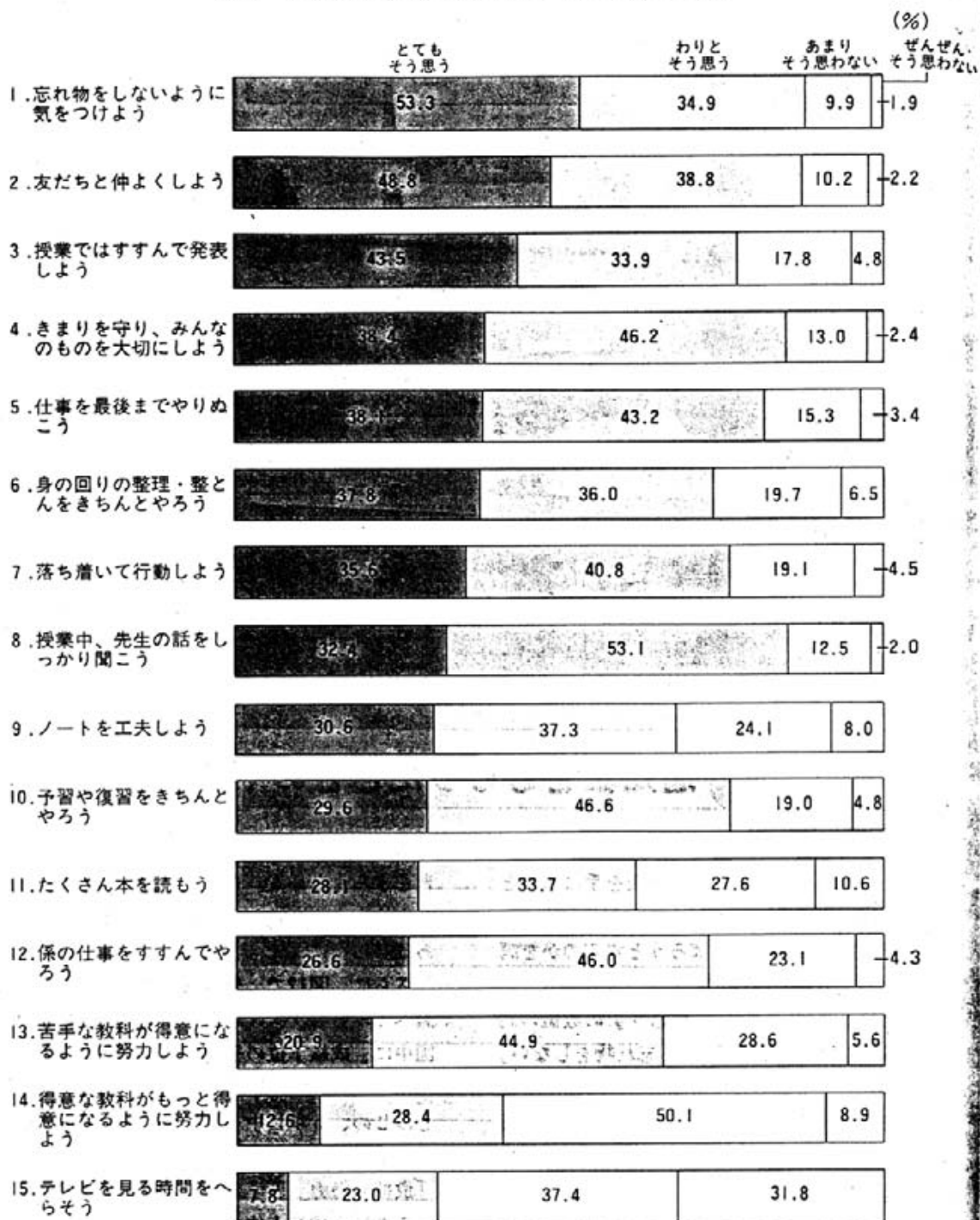
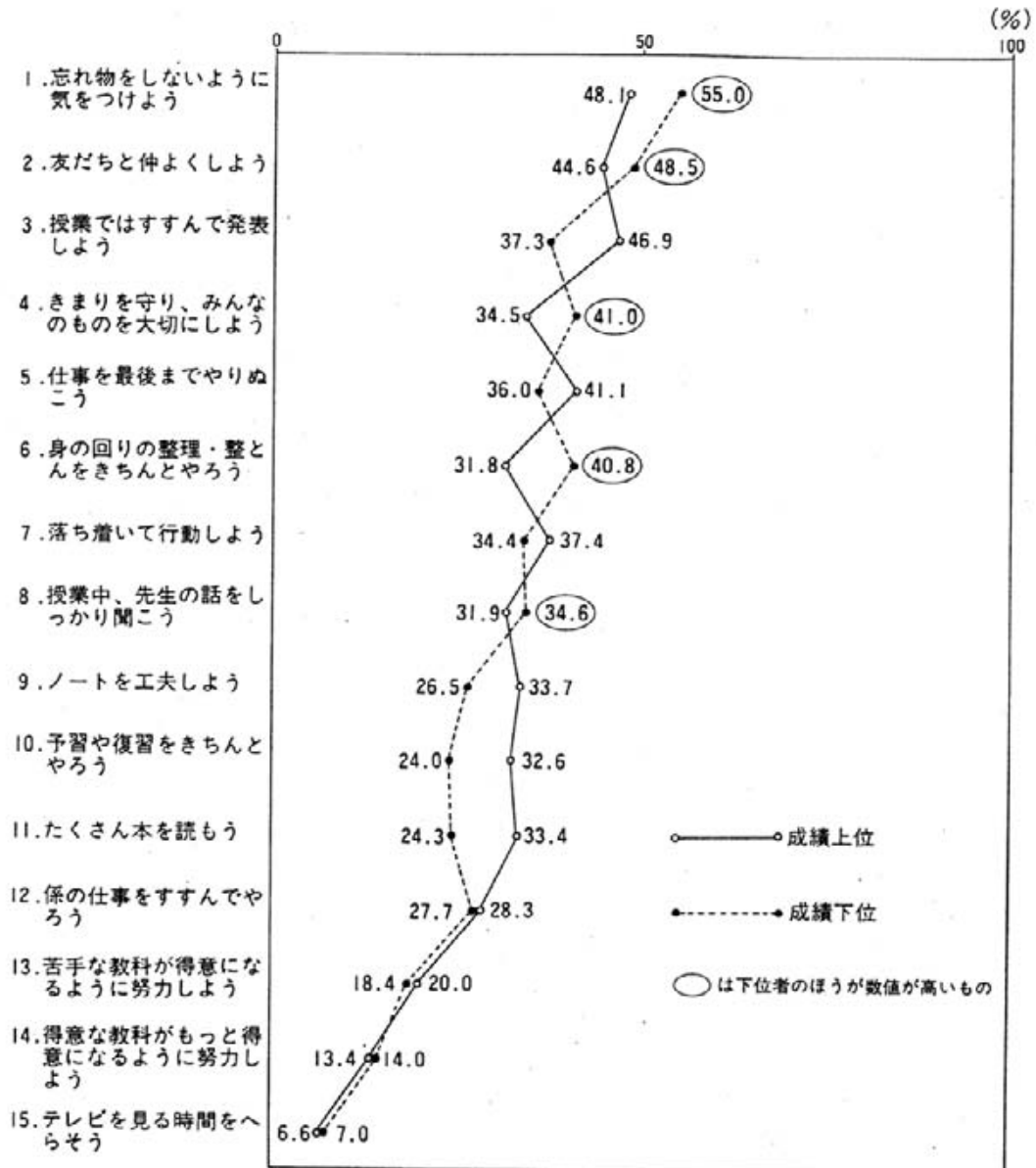


図12 通知表をもらったときの子どものやる気×成績

えん  
つない



数値は「とてもそう思う」割合

## 子どもの努力の様子

次に、子どもたちが実際にどの程度努力してきたのか探ってみよう。

図13は、図11と同じ項目について、これまでどのくらい努力してきたかをたずねたものである。

努力したことが「何回もある」割合は、子どものやる気と同じく、「忘れ物をしない」がトップで50%、次に「身の回りの整理・整とん」(37%)、「先生の話をしっかり聞く」(29%)、「友だちと仲よく」(26%)と続く。

やはり、上位にきている項目は生活面が多い。そして、子どもたちが最もできないのが、「テレビを見る時間をへらす」ということである。スイッチを入れさえしなければ、テレビは見るができないのだから簡単にできそうだが、ついつい見てしまうし、逆に、テ

レビなしでは生活できなくなっているのかもしれない。

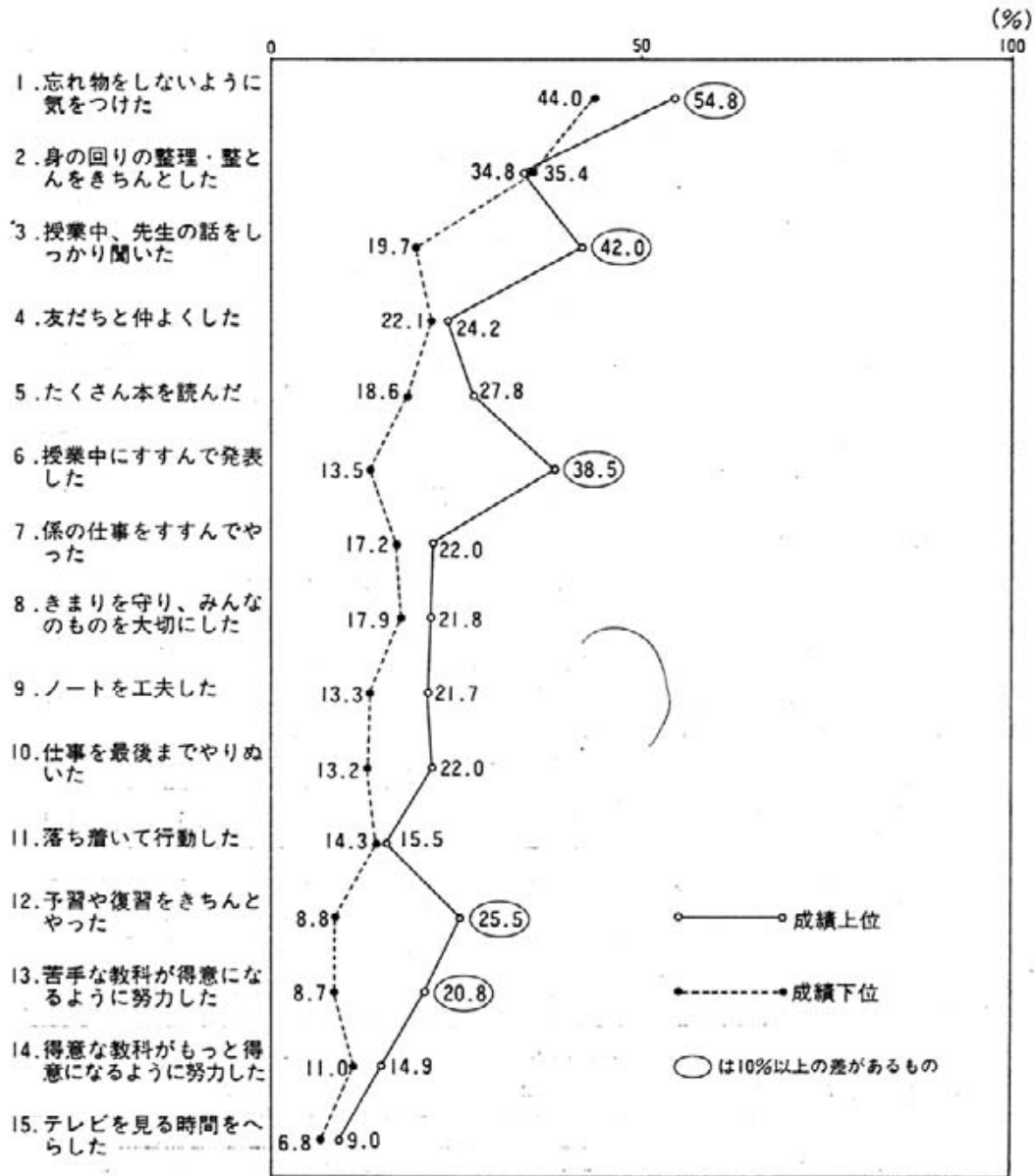
さらに、ここでも努力と成績の関係に目を向けてみよう。図14で明らかなように、ほぼすべての項目で、成績上位の子が下位の子よりも努力が上回っていることがわかる。とくに努力の差がみられるものは、図中に○をつけたが、「忘れ物をしない」の他は、「先生の話をしっかり聞く」をはじめとして、すべて学習面に関する項目である。

成績下位の子がいくら努力しても、上位の子はそれ以上に努力しているのである。相対評価の通知表では、その努力はまったくといっていいほど成績に反映させることはできないのである。

図13 子どもの努力の様子

	(%)			
	何回もある	わりとある	1、2回ある	ほとんどない
1. 忘れ物をしないように気がつけた	49.5	37.7	9.9	2.9
2. 身の回りの整理・整頓をきちんとした	37.3	36.1	19.7	6.9
3. 授業中、先生の話をしっかり聞いた	29.2	59.0	9.2	2.6
4. 友だちと仲よくした	25.6	47.8	20.5	6.1
5. たくさん本を読んだ	23.3	29.6	26.3	20.8
6. 授業中にすすんで発表した	20.8	31.9	31.6	15.7
7. 係の仕事をすすんでやった	19.4	40.2	31.1	9.3
8. きまりを守り、みんなのものを大切にした	19.1	47.6	27.2	6.1
9. ノートを工夫した	18.2	31.1	32.8	17.9
10. 仕事を最後までやりぬいた	18.0	40.4	32.7	8.9
11. 落ち着いて行動した	17.0	41.2	29.4	12.4
12. 予習や復習をきちんとやった	16.5	35.9	33.3	14.3
13. 苦手な教科が得意になるように努力した	13.5	38.7	34.3	13.5
14. 得意な教科がもっと得意になるように努力した	12.9	27.0	36.4	24.7
15. テレビを見る時間をへらした	8.1	16.3	31.6	44.0

図14 子どもの努力×成績



数値は「何回もある」割合

## ● 子どものやる気と努力の谷間で

子どもたちの多くは、通知表の成績がよくなるためには、予習・復習や授業の受け方といった、本人の努力が大切だと思っている。生まれつきの能力不足を嘆くより、具体的対応が可能な努力に原因を求める姿勢のほうがはるかに健全だといえよう。しかし問題は、成績下位の子どもは多くは努力そのものがうまくできないことと、相対評価の通知表の場合必ずしも努力をすべて成績に反映できないということである。

図15に、子どものやる気と努力の結びつきをまとめてみた。ここでは、やる気と努力が結びつかず差が大きいものから順に並べてみた。

数値が比較的高く、やる気と努力が結びついているのが、「忘れ物をしない」「整理・整頓」である。子どもたちが具体的に何をすればよいかわかっている項目である。

その逆に、やる気と努力が結びつかないのが、「友だちと仲よく」「すすんで発表」「仕事を最後までやりぬく」「きまりを守る」などである。外で暗くなるまで友だちと遊ぶことをしなくなった今の子どもたちは、友だちと仲よくしようと思ってもどうしていいかわからないのだろう。発表できない子は、「すすんで発表しましょう」だけでは、発表できるようににはならないのである。

思うように努力できないでいる子どもたち

の通知表に、努力の具体的な方法を明示し結果に結びつける方法を考えたり、相対評価を見直すことが今求められているのではないだろうか。そうしないと、通知表は、子どもの成績のランクづけをするだけで、子どものはげみとなり、次の学習に役立つものとなれないだろう。

しかし、現在の通知表の多くが子どものはげみとなり、次の学習に役立つものとなかなかないようであるからといって、すぐに通知表を変えられるというものでもないだろう。

そこで、次の図16では、子どもの努力と教師の態度の関係に着目してみた。

図から明らかかなように、「友だちと仲よくする」以下の15項目すべてで、「子どもの努力を認める先生」のほうが、「認めない先生」より、「何回も努力している」子の割合が高い。

テストの結果だけでなく、子どもの努力も認めて通知表をつけようという教師の姿勢で、これだけの努力の差が生じるのである。

だが現実には、努力を認めようにも通知表によって限界があるだけに、お父さん、お母さんが通知表をどう見て、どう活用するのかという点についても考えていかなければならない。

図15 通知表をもらったときのやる気と努力

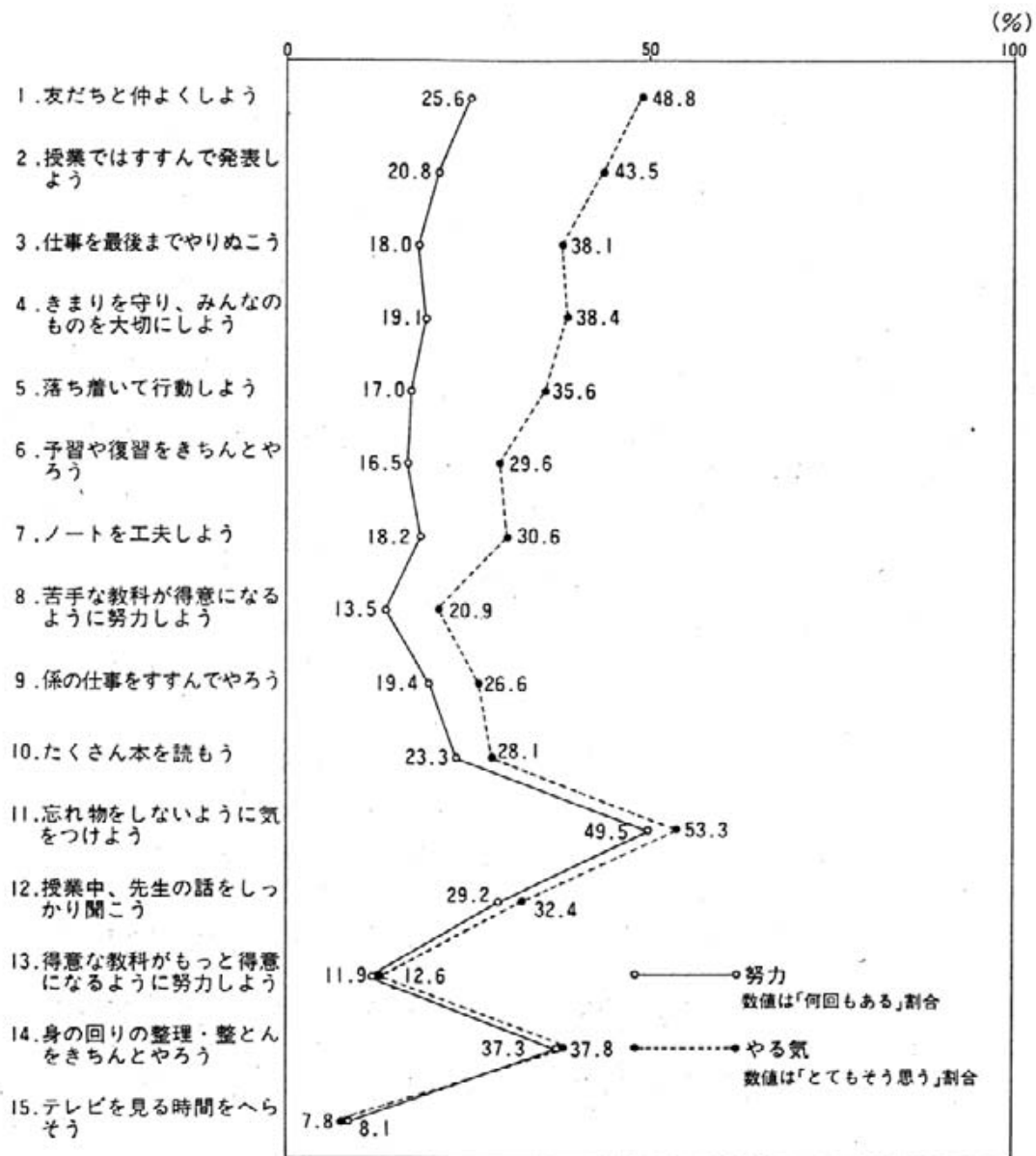
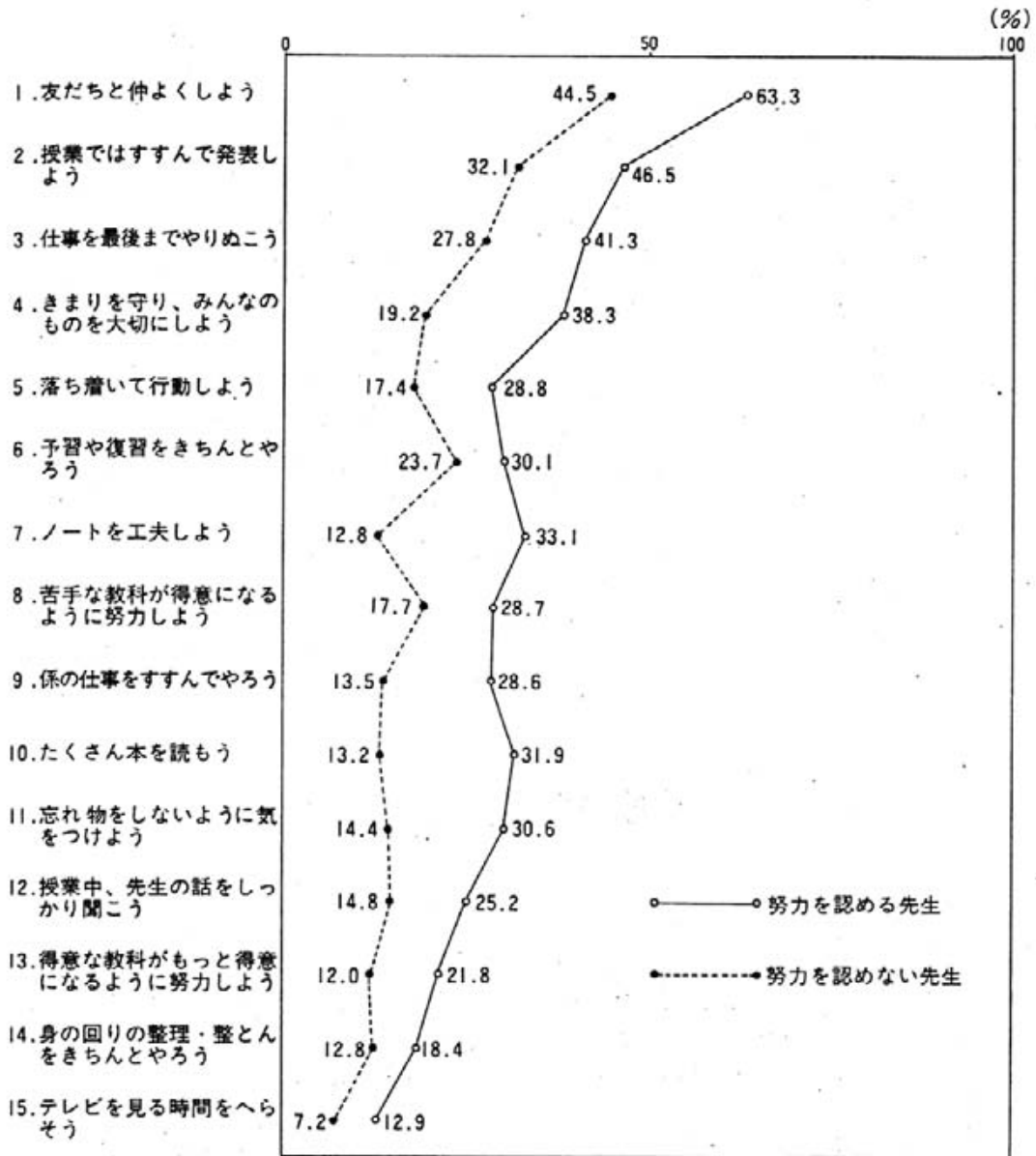


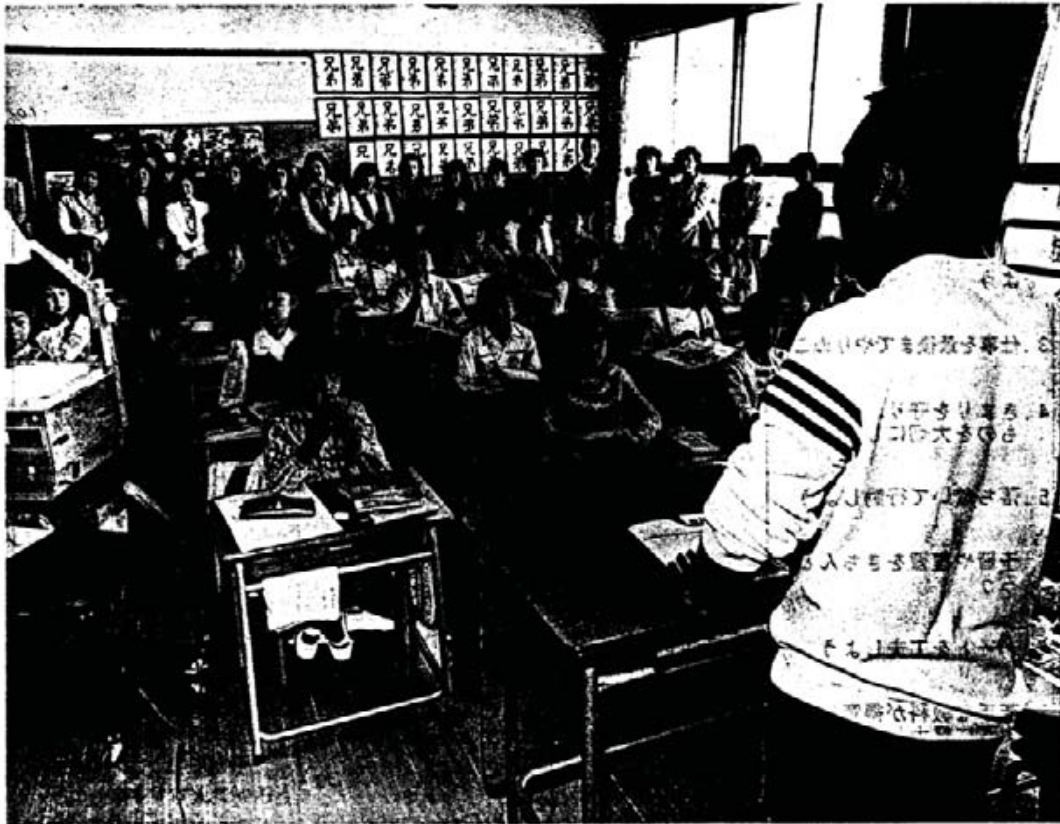


図16 子どもの努力×教師の態度



数値は「何回もある」割合

## 4. 父母の通知表に対する姿勢



### ● 通知表を手にしたとき

どの親も、通知表は気になるもの。親は、わが子の通知表の話となると目の色が変わる。親にしてみれば、全部の項目に優れた成績を願うことは当然のことだろう。だがこの願いがすべて満たされることはむずかしいことである。

まず、表3、表4を見てみよう。表3は「通知表のことで一番よかったほめられ方」、表4は「一番ひどかった叱られ方」について、自由記述の中から抜粋したものである。「おせきはんをたいてくれた」「ニコニコしてあたまをなでしてくれる」「レストランにつれていってくれた」(表3)、「コラ!バチン」「正

座をさせられてしかられた」(表4)などの項目を読んでいくと、通知表で一喜一憂している親の姿が浮かびあがってくる。

そこで、通知表を手にしたときの親の態度を父親・母親に分けて、もう少しこまかくたずねてみよう。

図17、図18は、「だれから」一番ほめられたり、叱られたりしたのかをまとめたものである。これによると、ほめられるときは父親と母親の両方から、叱られるときは母親からというパターンが最も多いようである。昔は、通知表を父親に見せるときが一番緊張したというが、今は、母親が一番怖い存在らしい。

表3 一番よかったほめられ方(抜粋)

1. おせきはんをたいてくれた。
2. 「やったじゃない」「すごい」「えらい」。
3. 言葉ではあまりいわないが、目でほめてくれる。
4. ニコニコしてあたまをなでてくれる。「今度もがんばろうね」とはげましてくれる。
5. 「がんばったね」と言って、買ってほしかったものを買ってくれた。
6. レストランにつれていってくれた。
7. 5,000円くれた。
8. その1日はやさしかった。
9. 「これからもがんばれ」「おまえだけが頼りだ」。
10. にっこりして、「がんばった」といって手を握ってくれる。
11. お父さんがまくらもとにお手紙をおいといてくれた。
12. 近所の人からもほめられた。
13. 「必ず〇〇君は、いい大学や会社に入れるね」と言ってくれた。

表4 一番ひどかった叱られ方(抜粋)

1. コラノバチン。
2. ほうきでたたいてきたり、包丁でおどされた。
3. 家に入れてくれない。
4. 正座をさせられしかられた。
5. タゴはんぬき。
6. 「テレビを見るな」と言われた。
7. 「おまえは、ほんとうにバカだなあ」。
8. 「もうダメな子、お父さんとお母さんの子でしょ」と長々とお説教。
9. 夏休みはずっと勉強していなさい。
10. 1日しゃべってくれなかった。
11. 「塾に行っているのにさがるなら、塾もやめなさい」といわれた。
12. こづかいをひかれた。
13. 「塾に入っている〇〇ちゃんなんかに負けたりして、おまえは塾なんかに入っていないんだから、〇〇ちゃん以上にがんばらなくちゃだめですよ。おまえ本当にうちの子なの」。
14. しかられなかったけど、何も言わないでどっかに行ってしまった。
15. 「今度から絶対がんばりなさい」とため息をついた。

図17 だれから一番ほめられたか

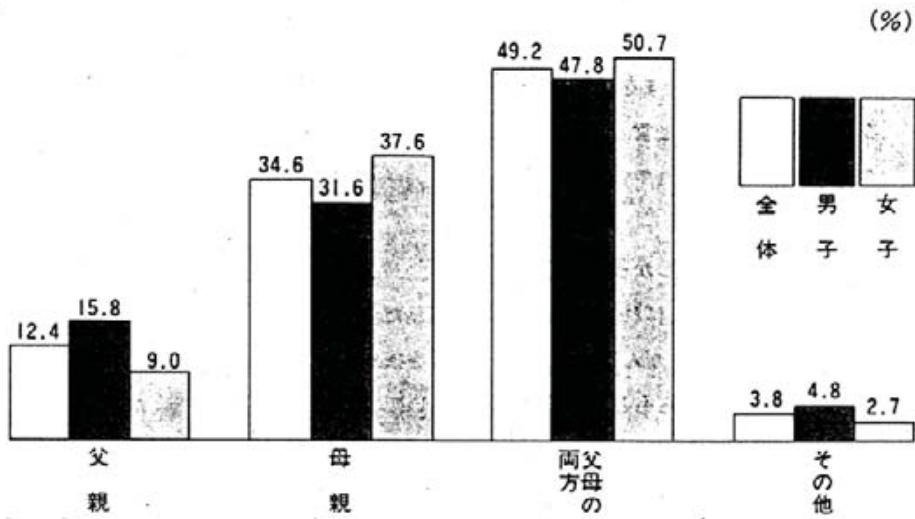
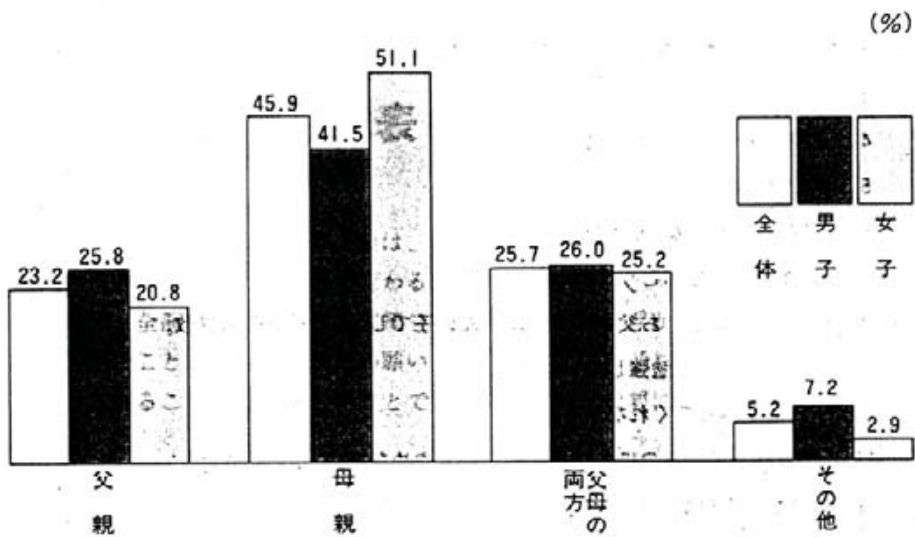


図18 だれから一番叱られたか



## ● 努力を認めてくれる父母

さらに図19、図20は、通知表を見せたときの父親と母親の態度である。父親・母親とも、最も多いのは、「よい点や努力したところを認めてくれる」で、「何回もある」親は3人に1人いる。「わりとある」まで含めると7割に達する。父親と母親で順位が入れ替わるが、これに続くのが、「勉強のやり方やコツを教えてくれる」「はげましてくれる」である。「怒ったり」「無視したり」「説教をする」ということは、一部の親を除いてほとんどな

いのである。

図21を見るとわかるように、成績不振の子は、「こんな成績」ではよくないことぐらいは本人が痛いほど感じている。さらに、親が追いうちをかけ、叱ったり、怒ったりすれば、ますます人生を暗く見ていくようになってしまう(図22)。それだけに、多くの親が、子どもの優れた点、努力したことが通知表にひとつでもあれば、それをとりあげほめるようにして、通知表を子どもの側で見ていること

図19 通知表を見せたときの父親の態度



にホッとひと安心してゐる。

叱ったり、説教しても子どもが努力するわけではないことは、次の表5からも明らかである。これは、子どもの努力と母親の通知表を見たときの態度との関連を調べたものである。

表が示すように、最も子どもの努力を引き出す親の態度は、「勉強のやり方やコツ」を教えるで、15項目中14項目で子どもの努力の

割合が最も高い。逆に、最も効果がないのは、「叱ったり、怒ったりする」で、10項目中で、最低の数値を示している。

通知表の評価は、よいにこしたことはないが、その仕組みを理解し、結果だけにまどわされ、感情的に叱ったりしないで、子どもの将来を見つめ、子どものよき理解者、アドバイザーとして豊かな人間性を育てていく親であり続けてほしいと思う。

図20 通知表を見せたときの母親の態度

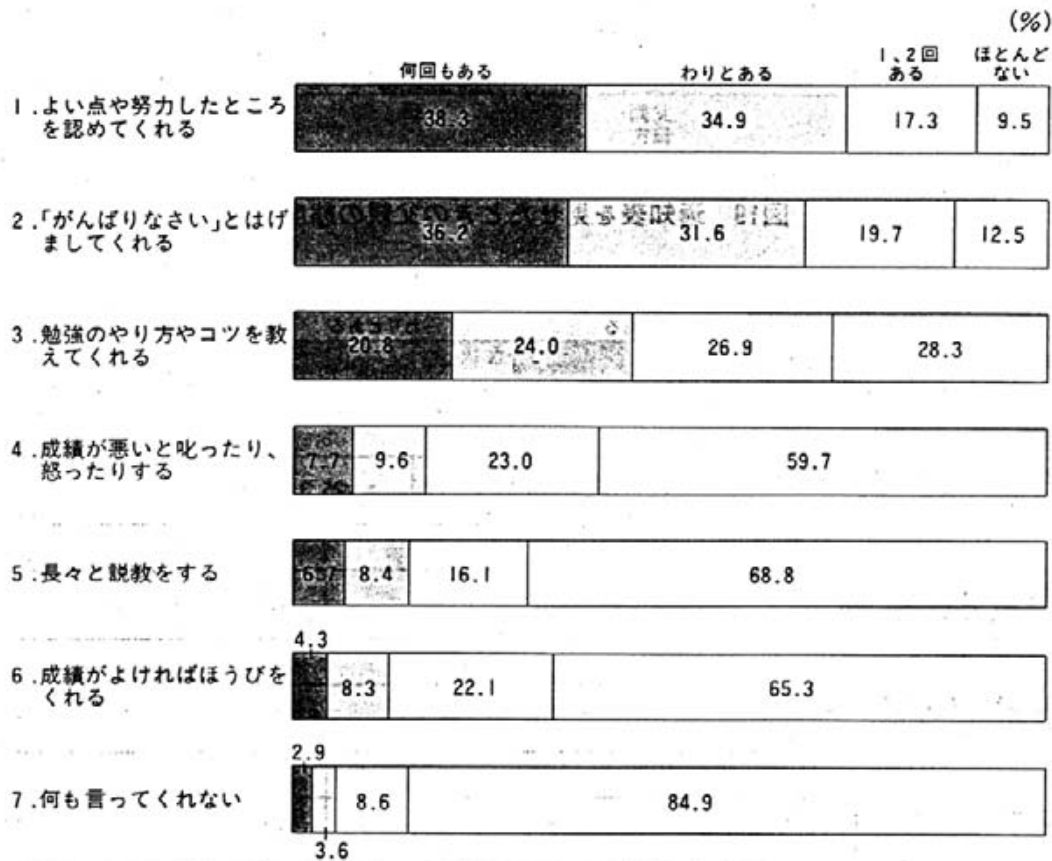


図21 暗い自己像×成績

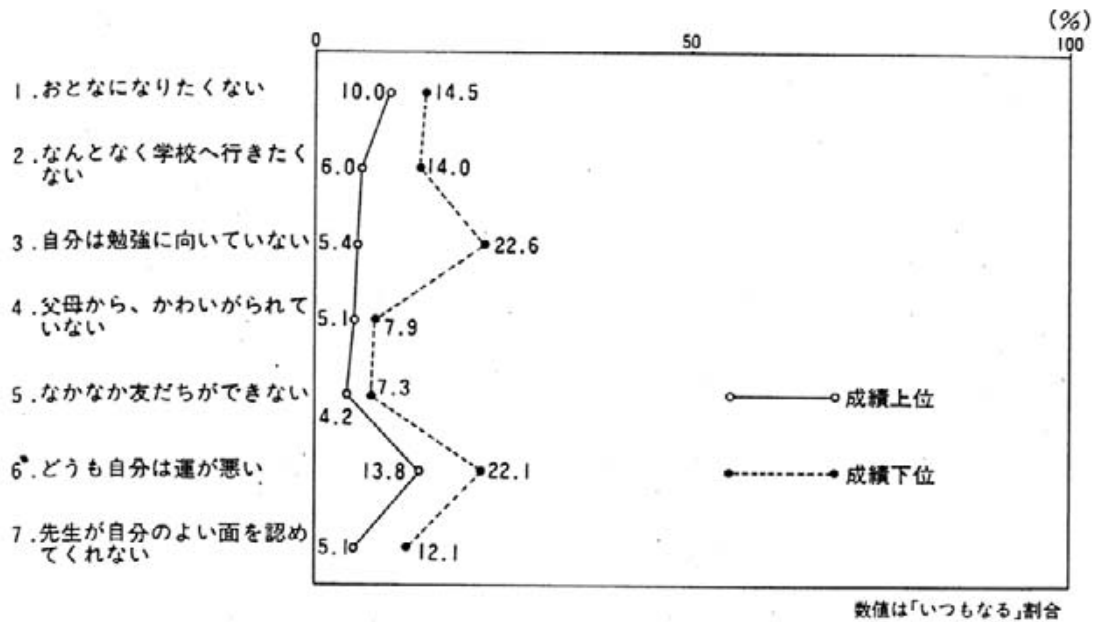


図22 暗い自己像×母親の態度

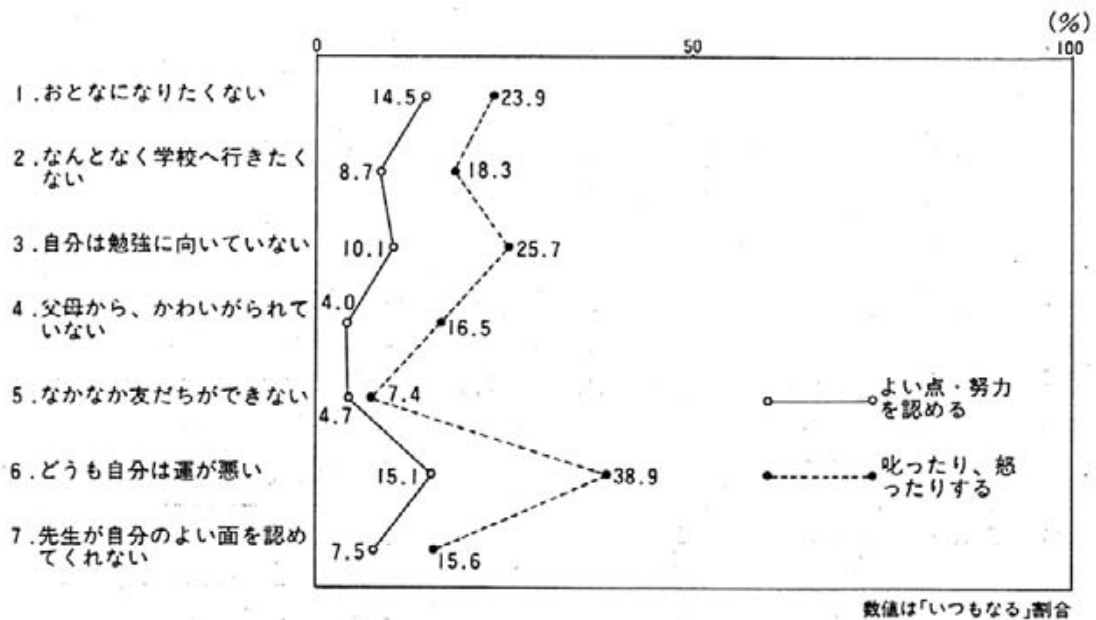


表5 子どもの努力×母親の態度

(%)

母親の態度 子どもの努力		よい点や努力を認め てくれる	「がんばりなさい」と はげましてくれる	勉強のやり方やコツ を教えてくれる	叱つたり、怒つたり する	長々と説教をする	全 体
		何回も ある	何回も ある	何回も ある	何回も ある	何回も ある	何回も ある
1. 忘れ物をしないように気をつけた	何回も ある	59.6	57.6	(63.2)	45.0	40.6	49.5
2. つくえの中や身の回りの整理・整とんをきちんとした	何回も ある	45.5	46.1	(51.5)	36.4	39.2	37.3
3. 授業中、先生の話をしっかり聞いた	何回も ある	35.9	34.6	(41.1)	24.5	29.9	29.2
4. 友だちと仲よくした	何回も ある	32.5	29.9	(35.8)	26.4	28.9	25.6
5. たくさん本を読んだ	何回も ある	30.6	29.1	(32.2)	29.6	25.3	23.3
6. 授業中にすすんで発表した	何回も ある	29.7	25.9	(30.6)	28.7	30.5	20.8
7. 学校の係の仕事すすんでやった	何回も ある	25.9	24.9	(30.1)	24.5	22.7	19.4
8. きまりを守り、みんなのものを大切にた	何回も ある	24.5	24.9	(30.4)	24.5	22.7	19.1
9. ノートを工夫した	何回も ある	27.6	22.6	(29.4)	17.3	20.6	18.2
10. 仕事を最後までやりぬいた	何回も ある	26.2	24.1	(28.2)	20.0	20.6	18.0
11. 落ち着いて行動した	何回も ある	24.1	24.1	(31.3)	21.5	18.1	17.0
12. 予習や復習をきちんとやった	何回も ある	26.3	24.5	(30.6)	15.7	22.5	16.5
13. 苦手な教科が得意になるように努力した	何回も ある	20.9	19.0	(24.1)	15.5	15.6	13.5
14. 得意な教科が、もっと得意になるように努力した	何回も ある	16.2	16.2	15.4	14.5	(17.5)	11.9
15. テレビを見る時間をへらした	何回も ある	12.8	12.3	(16.4)	11.0	12.5	8.1

数値は「何回もある」割合、○は最大値、〰は最小値



## 5. 望ましい通知表を求めて



### ● 9割の子は通知表をとってある

「勉強ができるようになるために、通知表が役に立ったと思ったこと」が「何回もある」子は1割程度しかいなかったが(図1)、図23を見ると今までもらった通知表を、「お母さん、または自分で整理して全部とっている」子は、8割近くおり、「整理はしていないが全部とってある」子も含めると9割程度になる。

さらに図24で、「これからも通知表をとっておこうと思いますか」とたずねると、4人に3人は、「ぜったい・たぶんとっておく」と答えている。

通知表は子どもにとっても、親にとっても、かなり重視されており、これからも学校からの教育情報として重視されていきそうである。

図23 今までもらった通知表をとっておく

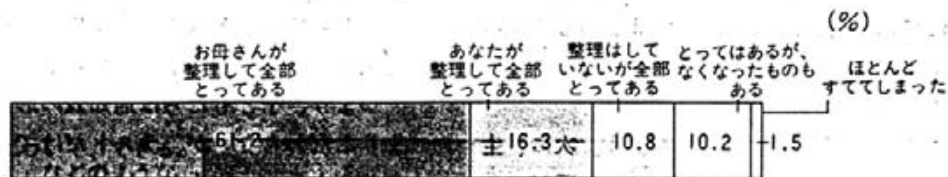
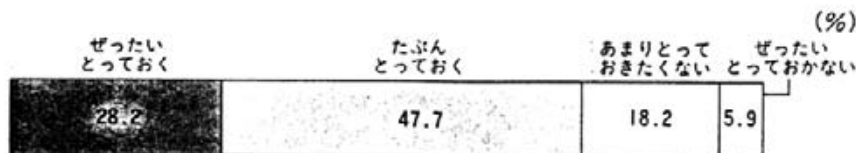


図24 これからも通知表をとっておく



## 子どもの望む成績のつけ方

これまでみてきたように、通知表は数々の問題点を含みながらも、学校と家庭とを結ぶ大事なかけ橋の役目をしている。それだけに通知表のあり方に、もっと工夫があってもよいという気持ちが出てくる。

そこで、まず子どもたちは、どんな成績の表し方を望んでいるのか調べていこう。

図25は、学習面における成績の表し方についての結果である。「文章表記」から「順位」まで5項目についてたずねたのであるが、「とてもよいと思う」のは「文章で説明する」表し方がトップで28%である。どの表し方も子どもたちは、「とてもよい」とは思っていないようである。「わりとよいと思う」まで含めると、「5段階評価」が66%と、一番よいと思っている。

このところ、通知表のスタイルが変わりはじめ、5段階評価が姿を消して、3段階評価、そして文章で評価を記述するスタイルが増加しているが、かつての5段階評価がよいと思っている子どもも多いのである。

学校側は、子どもや親たちが成績にこだわりを持たないようにと、5段階評価から他の評価へスタイルを変えてきたのであろうが、それでは、「自分の力がどれほどのものなのかよくわからない」「はげみにならない」ということなのだろう。

さらに、データを追ってみよう。次に、生活・行動面についてたずねたのが、図26である。ここでも学習面と同様、全体的に「とて

もよいと思う」数値が低く、あえていえば、やはり「文章表現」か「3段階評価」がよいと思っているのである。

もう少し通知表の評価の仕方について見ていこう。図27では、対照的な通知表の評価について子どもたちの意見を聞いてみた。

まず(1)の絶対評価か相対評価では、人数に関係なく、よい成績ならみんなにAをつけたほうがよいと絶対評価を支持する子は半数で、あとの半数は、相対評価か、または、どちらでもよいのである。

(2)では、学習のはげみや反省になるように、教科別ではなく、各教科をさらにいくつかの観点にわけ、その観点別にそれぞれ成績をつける通知表を用いる学校が増えてきたので、観点別の通知表をどう思うかたずねてみた。

観点別がいいという子が32%、教科別が40%と、それほど大きな差はない。子どもとしては、どちらでもよいのかもしれない。

子どもの強い意見が出たのは、(3)、(4)である。

(3)では、学習成績はテストだけでなく授業中の態度も入れてほしいという子が、8割を超えている。

また(4)では、3人に2人までが、通知表は先生がつけるものだと思っている。

つまり、子どもたちは通知表の形式にはあまりこだわらないが、テストだけでなく、授業態度も入れ、先生がつけてほしいと思っている子どもが多いのである。

学校が学力差を意識しない通知表を心かけているのと対照的に、子どもたちの中には、自分たちの成績は、とくによいのか、普通なのかはっきりと教えてほしいと思っている子がかなりいそうである。

最後に、子どもたちにどんな通知表がよい

か書いてもらったので、それを紹介しよう。

表6に、「じぶんのよい面、悪い面をくわしく書いてくれて、こうしたらもっとよい、ここはこうするとよいとくわしく教えて書いてくれる」などの子どもたちの意見の中で多かったものと「あけたとたんにメロディがな

図25 学習の成績の表し方

	(%)			
	とても よいと思う	わりと よいと思う	あまり よいと思わない	ぜんぜん よいと思わない
1.教科ごとに、よい点・悪い点を、文章で説明する表し方	28.2	29.9	22.7	19.2
2.「5・4・3・2・1」などのような、5つの成績の表し方	24.6	41.4	24.5	9.5
3.「A・B・C」などのような、3つの成績の表し方	14.4	40.3	34.0	11.3
4.「できる、もう少し」などのような、2つの成績の表し方	10.7	18.7	38.2	32.4
5.成績のよい人から悪い人まで、順番をつける表し方	5.1	7.6	24.5	62.8

図26 生活や行動の成績の表し方

	(%)			
	とても よいと思う	わりと よいと思う	あまり よいと思わない	ぜんぜん よいと思わない
1.よい点、悪い点を文章で説明する表し方	31.0	26.9	22.6	19.5
2.各項目について、「A・B・C」などのような、3つの成績の表し方	13.7	45.7	31.2	10.0
3.すべての項目のなかで、その人がとくによい項目だけ○、とくに悪い項目だけ△にする表し方	12.8	29.6	39.3	18.3
4.各項目について、「できる、もう少し」などのような、2つの成績の表し方	9.6	26.3	43.5	20.6

がれたり、しゃべったりする通知表」のようなユニークなものを取りあげてみた。

これをまとめていて感じたのは、「通知表は、今のままでよい」という意見が多かったことと、「10段階評価」のように、評価段階をもっとこまかくしてほしいという意見がけっこうあったことである。

子どもたちはけっこう今の通知表で満足し、がんばろうとしている。だが、自分の努力がもっとはっきり出る通知表、悪くてもよくなるための具体的アドバイスのついた通知表であればもっといいなと思っているのではないのだろうか。

図27 通知表の評価方法

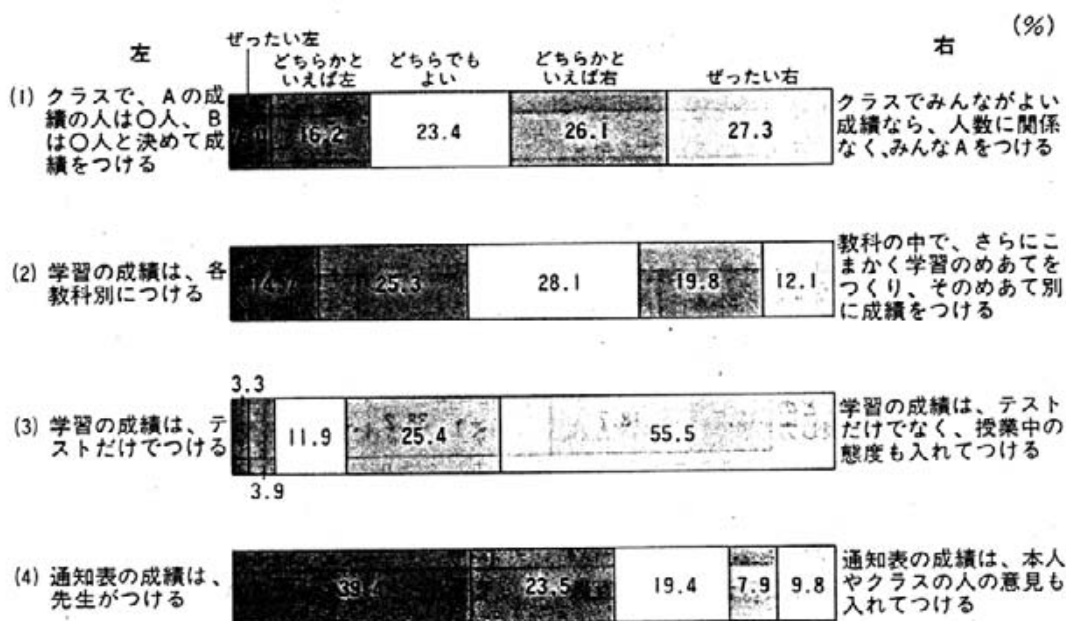


表6 子どもの望む通知表(抜粋)

じふのよい面、悪い面をくわしく書いてくれて、 こうしたりむとよい、ここはこうするとよいとくわしく 教えて書いてくれる。
勉強の成績じゃなく努力してるかしてない かでつけられたいと思う
1,2,3,4,5,6年のが1つになっ ているようなやつ。 もとがなるようにテープが っついているやつ
同じ学年の先生と話し合、てきめる  $\frac{2}{3}$ が担任 $\frac{1}{3}$ が同じ学年の先生
コンピューターがぼくたちの生活を見てい る。そのデータをもとに、通知表をつけ ばよい
自分のなやみの答えを教えてください。
遊びのこう紙をつける
それとよくできましたのシールがはって あったらいいな。
ちよとページ数がある。 絵がついていたりする。 おまけがついている。(先生からの、お手紙) 女の子は女の子の決まった色があり(つまり、男女) 男の子は男の子の : (色ちがい)
あぶりだし。じどうてきにしょうめつする 先生のおせっきょうのページが百ページぐらい ある。
おけたとたんに、×○マークがはかれりして、 とりする通知表

## まとめに代えて

通知表は、名称からはじまり、その形式・内容はもちろん、出す出さないも含めて、すべて学校の自由である。

通知表は、子どもをよりよく育てるための学校と家庭を結ぶ大事なかけ橋の役目を果たしているが、子ども、父母そして教師であっても、通知表は重要な関心事である。

学校にとって通知表をどうするかは、学校の教育方針ともかかわって、かなり白熱した論議をよびおこすものである。とりわけ、一人一人を伸ばすこと、形成的評価のかかわりの中で通知表見直しの声が、今、高まっている。

また、多くの家庭で通知表を保存することを考えると、もう少し通知表のスタイルや表記の仕方などに工夫があってもいいように思う。

そこで、望ましい通知表にするためのいくつかの手がかりを探り、まとめに代えたい。

### (1) 総合評価と観点別評価で構成する

子どもたちのどの程度自分ができるのか知りたいという欲求は、総合評価で満たし、さらに成績を伸ばすためにはどんなところを努力すればよいのかを観点別の評価で知らせる。

### (2) 客観評価と本人の努力評価で構成する

努力をもっと認めて成績をつけてほしいという子どもたちの声が強い。そこで、今までの客観評価の隣に努力評価項目を設け、本人

の努力を評価してあげたらどうだろうか。

### (3) 教師評価と本人の自己評価で構成する

自己評価を取り入れることにより、子どもは、自分自身の学習をふり返り、悪かった点、よかった点について考える機会が得られる。また、自分と先生の評価のズレや一致を感じるにより、具体的にどこを直せばよいか

### (4) カルテ方式

子どもの様子の欄を作り、学期末だけに限らず、常時子どもの学習面・生活面についてよい点や問題点など気のついたことや、具体的な事実とはげましの言葉などを記録する。

### (5) 家庭通信欄を作る

家庭での子どもの様子についてのチェック項目と通信コーナーを設け、学校と家庭の連携をはかる。

### (6) がんばり賞コーナーを設ける

ここでは、「給食配りチャンピオン」「校庭100周走破」「やさしさNo.1」など学力以外の面に着目して子どもをはげます。

### (7) カット、写真を入れ、色刷りにする

シャレた学習の記録になり、思い出も残り、やる気をおこせる。

### (8) メロディタイプ

通知表を開くとメロディが流れる。成績が悪くても、おだやかな気持ちになり、またがんばろうという気にさせる。

※おことわり：本文中に使用した写真は本文・テーマとはいっさい関係ありません。